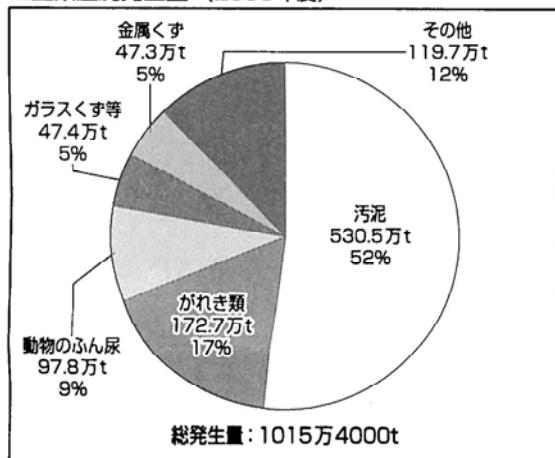


## 三重県

伊勢志摩地域では観光業も盛ん

北部にある工業地帯からの排出量が顕著

三重県産廃発生量（2008年度）



三重県の産廃発生量は、種類別発生量は、汚泥が530万500t（52・2%）と最も多く、次にがれき類で約1015万4000t（52・2%）と最多。動物のふん尿を中心とする農業系13万6000tと、汚泥を中心とする鉱業系158万6000tを除いた発生量のうち、汚泥が資源化され、最終処分量は5万7000t（15・6%）と最も多く、次に有償物量は57万7000t（15・6%）と続く。業種別発生量では、製造業42・8%が資源化され、建設業が47.3万t（46・6%）と最も多く、次に建設業204万9000t（20・2%）、鉱業0t（0%）である。

つていて。

04年度実績と比較す

%と大きく增加了。

ると、発生量は304万7000t、排出量は269万4000t増加。特に汚泥、がれき類、ガラスくず等が著しく増えた。業種別の発生量では、1位の製造業が223万7000t、建設業が60万9000t、電気・水道業が19万5000t増えている。また、発生量に対する各処理量の割合については、最終処分量が127・2

同県の北部は中京工業地帯になっており、そこに位置する四日市地域（四日市市・菰野町・朝日町・川越町）からの産廃排出量は22万1000t（31・7%）と、他地域に比べて突出して多い。この四日市地域を中心とする県北部に比べ、観光地で有名な伊勢志摩地域以南の排出量は少なく、南北格差が著しい結果となつてい

